

【評価実施概要】

事業所番号	0171200140		
法人名	すまいるモダ株式会社		
事業所名	グループホームすまいる		
所在地	〒061-1406 恵庭市和光町4丁目8番20号 (電話) 0123-39-3001		
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構 K ネット		
所在地	札幌市中央区南1条西5丁目7 愛生館ビル601 B		
訪問調査日	平成22年3月31日	評価確定日	平成22年4月9日

【情報提供票より】(22年3月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年 5月10日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤11人, 非常勤5人, 常勤換算2,9人	

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	2階建ての	1~2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費20,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1ヶ月当たり		27,000 円	

(4) 利用者の概要(3月25日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名	
要介護1	6 名	要介護2	5 名			
要介護3	3 名	要介護4	2 名			
要介護5	2 名	要支援2				
年齢	平均	84 歳	最低	73 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	恵庭南病院・島松病院・三木歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

恵庭市の閑静な住宅街に建ち、食事付共同住宅すまいるの家・デイサービスすまいるの家・居宅介護支援事業所すまいる・ペルプサービスすまいるが併設されている事業所である。春から秋にかけ敷地内は美しい花々で彩られ、利用者や来訪者・地域住民の眼を楽しませている。南向きの庭には東屋もあり、イスやテーブルを設置し、暖かい季節の日光浴やティータイム・焼き肉パーティに利用されている。また菜園もあり作業や収穫にも利用者が参加し、楽しみの一つとなっている。地域との交流やボランティア・研修生の受け入れも積極的にし、いち早くスプリンクラーを設置する等、利用者の安心・安全にも配慮した信頼できる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題はない。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員が地域密着型サービスの意義を理解し自己評価を1年の振りかえりの機会と捉え、作成している。自己評価・外部評価は運営推進会議で公表し、誰でもが手に取り見ることができるよう、各ユニットに掲出している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は家族代表・地域代表・民生委員・地域包括センター職員・市職員・事業所職員等が出席し定期的に開催している。行事予定と報告・地域との交流・ヒヤリハットの原因と対策・研修状況・防災計画等が話し合わせ、サービスの質の向上と事業所の運営に効果を上げている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	意見箱を設置しており、苦情対応窓口は重要事項説明書に明記している。家族の来訪時には、暮らしぶりや健康状態を報告している。写真付きの事業所機関紙『すまいる便り』を定期発行し、行事や日々の様子・医療情報を伝えている。職員の異動は運営推進会議報告書に記載し全家族に送付している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、町内会行事の花見・盆踊り・新年会・なごやかサロン・昼食会等には積極的に参加している。毎日の散歩時には近隣住民と親しく挨拶をかわす等、地域との交流を大切にしている。さらに『すまいる夏祭り』には、家族や多くの地域住民が参加し交流をしている。

評価結果（詳細）

NPO法人 福祉サービス評価機構Kネッ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域と交流し、家庭的な環境で生活する、地域密着型サービスを念頭に『安全で 楽しく 穏やかに』と事業所独自の基本理念を作り実践に向け取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に沿った介護の実践を行ない、カンファレンス等では日々の取り組みを検証し再確認している。また理念は随所に掲示し常に確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、町内会行事の花見・盆踊り・新年会・なごやかサロン・昼食会等には積極的に参加している。毎日の散歩時には近隣住民と親しく挨拶をかわす等、地域との交流を大切にしている。さらに『すまいる夏祭り』には、家族や多くの地域住民が参加し交流をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が地域密着型サービスの意義を理解し自己評価を1年の振り返りの機会と捉え、作成している。自己評価・外部評価は運営推進会議で公表し、誰でもが手に取り見ることができるように、各ユニットに掲出している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は家族代表・地域代表・民生委員・地域包括センター職員・市職員・事業所職員等が出席し定期的に開催している。行事予定と報告・地域との交流・ヒヤリハットの原因と対策・研修状況・防災計画等が話し合われ、サービスの質の向上と事業所の運営に効果を上げている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の担当職員は、運営推進会議に出席している。疑問点や改善点等は日常的に相談し、助言・指導を受けサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の来訪時には、暮らしぶりや健康状態を報告している。写真付きの事業所機関紙『すまいる便り』を定期発行し、行事や日々の様子・医療情報を伝えている。職員の異動は運営推進会議報告書に記載し全家族に送付している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置しており、苦情対応窓口は重要事項説明書に明記している。また家族来訪時には、意見や要望を聞き出せるような雰囲気を作り、話し合いをしている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ユニット間の異動は行なっていない。全職員は、他ユニットの利用者とも日常的に交流し馴染みの関係と信頼関係を、大切にしている。職員の退職も少なく、安定している。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所負担で外部研修に参加出来る機会を設けている。他に『恵庭市グループホームネットワークの会』では2ヶ月に一度研修会を開催している。同じ研修を2度開催することで都合の良い日に出席でき、個々のスキルアップに効果を上げている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>北海道グループホーム協議会や恵庭市グループホームネットワークの会に加入して、合同研修会開催や、情報交換でサービスの質の向上に努めている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>いきなりサービスが始まるのではなく、事前情報を基に事業所見学や短期入所で自然に馴染めるように配慮している。また管理者や職員が家庭や病院に出向く等、利用者・家族が安心納得した上で利用開始に移行するようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>人生の先輩として、得意分野で力を発揮してもらうための場面設定に配慮・工夫し、利用者中心の生活をしている。一人ひとりの個性を大切にして、共に学び支えあい、喜び・悲しみを共有出来る関係を築いている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の共に暮らしていく中で、一人ひとりの暮らし方の意向を十分に把握し、何をしたいか、どのように暮らしたいか、誰に会いたいかの視点に立ち、本人本位の支援ができるように努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ミーティングやカンファレンスで全職員による意見交換を行ない、日頃の関わりの中からより良く暮らすためのニーズや希望を汲み取り、介護計画を作成している。</p>		<p>利用者や家族が主体的に参加し、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成できるよう期待したい。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的に見直しをしている。毎日の状態を記録し、カンファレンスで話し合い状況に即したケアプランを作成しており、心身の変化や急変時には随時見直しを行っている。個々の情報及び連絡事項は、利用者の状況を素早く把握できるように、カードックスにファイリングしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人や家族の状況に応じ、通院・理美容室利用等の送迎や外出時の付き添い、日常的な散歩・買い物など事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者希望のかかりつけ医には、入居後もそのまま受診できるように、通院時の送迎もしている。また病状や症状に合った病院を受診でき、常に適切な医療が受けられるように支援している。事業所には2名の看護師が勤務しており安心感がある。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合や、終末期のあり方については、早期に利用者・家族に説明し、話し合っている。医師・家族・職員が連携し全員が方針を共有している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>何気ない言葉や語調が、利用者の誇りを傷つけ、プライバシーを損ねることがないように、言葉掛けや対応に注意した支援が行われている。個人情報に関する書類等も事務所で適切に保管されている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>家族的な雰囲気の中で日々、自由に暮らしている。利用者個々のペースを大切にし、買い物や散歩等その人らしい暮らしができるように、体調に配慮しながら希望に沿えるように支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞き、相談しながら日々の献立を決めている。地元の食材や旬の食材を使い、調理・配膳・後片付け等を楽しみながら行い、職員も同じテーブルに着き、なごやかに食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は一人ひとりの体調に配慮しながら、習慣や希望に沿って、いつでも入浴できるよう支援をしている。拒否傾向の利用者には、声掛けや時間を変える等の配慮をしている。浴室はユニットに2ヶ所ある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や身体状況をふまえ、除雪や花壇・菜園作り・買い物・散歩等、一人ひとりの思いに沿い、日々喜びや張りのある生活が送られるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	心身の活性化につながるよう、体調や希望に合わせて、日常的に散歩・買い物に出掛けている。自然に戸外に出られるようにドライブや行事外出をしており、室内に閉じこもらない生活を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は一般家庭と同様に施錠しているが、日中、玄関の鍵は掛けていない。鍵を掛けないケアを大切に、外出傾向の利用者には行動を抑制せず、職員も共に外出し個別に対応している。常に気配り目配りで見守り、自由な暮らしを実践している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回避難訓練をしている。避難訓練の際は地域にも告知し協力を求めており、運営推進会議においても話し合われている。火災通報装置・火災受信機・火災報知機・熱感知器・煙感知器・消火器・スプリンクラー等を設置し消防法に基づく設置義務を遵守し、安心安全に配慮している。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>利用者と相談しながら個々の好みを取り入れた献立を工夫している。食事摂取量・水分量は記録し、全職員は情報を共有している。管理栄養士に身体状況や病状に合わせた栄養指導を受け、個別に支援している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間の壁には利用者の作品や行事写真が飾られ、トイレ・廊下・浴室には手すりが効果的に配置されている。日常生活の匂いや音（食事作りや掃除）で五感を刺激し、温度・湿度に気を配り心地よく過ごせるよう、配慮・工夫し快適な居住空間を作っている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>個々の使い慣れた、馴染みの家具・調度品・生活用品を各家庭から持参し家族写真や手芸作品等を飾り、安心して心地よく過ごせるよう工夫している。各居室のカーテンは防災加工され防災にも配慮している。</p>		

 は、重点項目。